

事例 3: グローバルヘルスガバナンス

2018 年 12 月 20 日の講義にて、グローバルヘルスガバナンスに関して 2014 年から 2015 年にかけて大きな問題となったエボラ流行を事例に議論を行なう予定です。2 の資料を読んだ上で、3 の論点に関して A4 で 1-2 ページ程度のレポートにまとめ、12 月 18 日(水)8 時までに 4 の提出先に送付して下さい。

1 テーマ

エボラ流行に対応するグローバルヘルスガバナンスのあり方

2 資料

1. Harman, S. & Wenham, C. (2018). Governing Ebola: between global health and medical humanitarianism. *Globalizations*, 15(3): 362-376.
2. Burci, G. L. (2014). Ebola, the Security Council and the securitization of public health. *Questions of International Law*, 10: 27-39.
3. 国境なき医師団, 2015, 『史上最大のエボラ流行の 1 年: 極限まで、そしてその先へ』.
[https://www.msf.or.jp/library/pressreport/pdf/MSF1YearEbolaReport_23031.pdf]

3 論点

1. 資料 1(Harman & Wenham 2018)と資料 3(国境なき医師団 2015)を読み、エボラの流行への当初の対応における問題点、また、そのような問題が起こった理由について述べてください。
2. 2014 年 9 月、エボラの流行は国際社会の「平和と安全保障への危機」だとする安保理決議がなされました。資料 2(Burci 2014)を読み、なぜ感染症問題がグローバル安全保障の問題として捉えられるのかを述べてください。
3. 安全保障の問題として捉えられたことで、医療関係者だけではなく軍隊もエボラ対応に参加しましたが、各資料にあるように規範的・実践的な問題点が指摘されています。その問題点を挙げた上で、グローバルヘルス問題に軍がどのように関与すべきかあな

たの意見を述べてください.

4 提出

- 城山英明[siroyama@j.u-tokyo.ac.jp]
- メールの件名: 国際行政論 2019 事例 3_(氏名)
- 提出期限: 12 月 18 日(水)8 時.